

科学論文の目的は著者の実験プロセスとその結果を読者に正確に伝えることです。したがって、曖昧で不必要に複雑な文章や単語の使用は避け、はっきりと簡潔な記述を心がけましょう。

[文法に関わる注意事項]

- 一般的に科学論文では長く複雑な形態をとるPassive voice(受動態)よりも直接的で文意が明確なActive voice(能動態)の使用が好ましい。
- 受動態を使用する場合には、一つの文章に能動態と受動態を混在させないように注意する。
- 一人称の視点から記述すること(We tested....)
- “than”を使用する際は“than that of” “than with” “than by”がより適していないか確認する。
- 名詞の前に長い修飾句を使用しない。
Ex. A modified test of cognitive function vs. ~~a modified cognitive function test~~
- 文法的に不明確な常套句は使用しない。
Ex. ~~Based on these results, it is concluded that, the results showed that~~
- Which vs. that
Ex. The study, which costs \$100, was a success
Ex. The study that costs \$100 was a success

[単語使用に関わる注意事項]

- 表現はできるだけ簡潔にする。
 - ~~based on the fact that~~ → because
 - ~~for the purpose of~~ → for or to
 - ~~there were several subjects who completed...~~
 - ~~it is suggested that~~ a relationship may exist...
 - one and the same
 - ~~a total of~~ n subjects
 - four ~~different~~ groups
 - absolutely essential
 - found previously
 - small ~~in size~~
 - in ~~close~~ proximity
 - ~~very close~~ to zero
 - ~~much~~ better
 - period of time
 - summarize ~~briefly~~
 - the reason is because
 - ~~also~~ included
 - Except ~~for~~
 - Rectangular ~~in shape~~
 - Blue ~~in color~~
 - Tenuous ~~in nature~~
 - The differences were ~~found to be~~ different
- 語彙の意味を正確に把握して使用する
 - subject → patientやgymnast
 - level → concentrationやfrequency
- 一般化しない。

- 一つのケースだけ分かっている場合はsomeを使用しない。
- ThisよりもThis testやthis problemを使用するようにする。
- Very、extremelyのような表現は使用しない。
- 単数と複数をきちんと区別する。
 - Criterion vs. Criteria
 - Datum vs. Data
 - Medium vs. Media
 - Phenomenon vs. Phenomena
- 一つの段落でHowever(もしくは同義の単語)を二度以上使用しない。
- 1段落で何度も主張を変えると読みにくくなるため。
- ~~the study concluded that~~ → The authors concluded that
- As suchの使用は避ける。
- Herやhisのように性別を表す表現は避ける。
- Above (the above methodやmentioned aboveなど)を使用するときは読み手が混乱しないよう気を付ける。
- Affect → influence vs. Effect → result
- All of、both ofよりもallやbothを使用する。
- Alternate vs. Alternative
- Apparentlyはobviously、clearly、plainly evidentだけでなくseeminglyやostensibly、observablyなどの意味を持っているため、読み手を混乱を招きやすい。
- ~~At the present time、At this point in time~~ → At present、Now
- compare A with Bは「AとBの違いを比べる」という意味、compare A to Bは「AをBに例える」という意味なので注意。
- During the course of、in the course of → “during”や“in”を単独で使用するようにする。
- ~~In order to~~ → to
- Less(er)は数えられない名詞を、few(er)は数えられる名詞を修飾する。
- Percent vs. Percentage → percentは数字がある場合のみ使用できる。
- Principle vs. Principal → 原則 vs. 主な～、校長、学長
- ~~Prior to、previous to~~ → before、preceding、ahead of